

角田燎『陸軍将校たちの戦後史』 (新曜社、2024年) 合評会

2025年3月1日(土) 13時～17時半

立命館大学朱雀キャンパス301教室

参加無料
事前申込不要

評者：

金澤悠介(立命館大学産業社会学部教授)

山本昭宏(神戸市外国語大学外国語学部准教授)

木村美幸(福井工業高等専門学校助教)

応答者：

角田燎(立命館大学立命館アジア日本研究機構専門研究員)

司会：

加藤雅俊(立命館大学産業社会学部教授)



【概要】

角田燎『陸軍将校たちの戦後史』は、陸軍将校という軍エリート集団が戦後社会をどのように生き抜いてきたかを明らかにした一冊である。本書は、陸軍将校たちが自らの責任をどのように認識し、それが戦後社会の変化とともにどのように変容していったかを探る。また、その変化において、陸軍将校たちの世代間の差異や彼らが関与した団体がどのような役割を果たしたのかを丹念に分析している。そして、こうした分析を通じて、戦争体験者が「歴史修正主義」に接近していく力学を解明する点が、本書の大きな特徴となっている。

本書評会では、本書の意義や課題をより深く考察するために、金澤悠介先生、山本昭宏先生、木村美幸先生からそれぞれの専門的視点に基づいたコメントをいただき、それに対して執筆者が応答する。その後、質疑応答を通じて、登壇者および参加者とともに、戦後社会における戦争体験の意味づけの変容や「歴史修正主義」に関する問題を検討していきたいと考えている。

お問い合わせ：角田燎 tsunoryu@fc.ritsumeai.ac.jp

【共催】

- 立命館大学人文科学研究所重点プロジェクトグローバル化と地域の多様性 (diversity)
- 科学研究費・若手「現代日本の戦後派世代にとっての「戦争と平和」：元自衛官の戦友会参加を手がかりに」
- 科学研究費・研究活動スタート支援「現代日本における元自衛官の自己呈示と社会活動：戦友会参加をめぐる歴史社会学的考察」
- 科学研究費・基盤研究B「『家族主義レジーム』の変容に関する国際比較研究—家族政策の多様化とその因果的背景」(研究代表者：加藤雅俊)